



2025協約改訂を全組合員で聞こう！ シリーズ⑨

## 住民犠牲のリニア建設は中止せよ！ 繰り返される異常時の休憩無しの乗務はやめろ！ 2025労働協約改訂第8回(再申し込み)団交

本部は本日、2025年度労働協約改訂の再申し込みに対する第8回団体交渉を開催しました。今団交では、新幹線乗務員の乗務員勤務制度に基づく交番作成について、専任社員・出向社員の労働条件、年末年始の祝日手当について、2期連続D判定での降格・降職の制度について、リニア建設、異常時における休憩などについて議論しました。

新幹線乗務員の乗務員勤務制度に基づく交番作成について、本部は「労働時間が16時間、17時間、拘束時間が26時間を超える行路が多数ある。交番作成規程に違反する。疲労状態で乗務している。安全上問題だ。会社は交番作成規程を遵守せよ」などと主張しました。

出向社員の労働条件について、本部は「社籍がJR東海である以上、本体の労働条件に合わせるのが筋だ。希望して出向に行ったのではない」などと主張しました。

専任社員の労働条件について、本部は「従来の勤務時間で半分の賃金は納得いかない。体力が持たない。短時間勤務にするか、休日を増やすかだ」などと主張しました。

年末年始の祝日手当について、本部は「祝日には手当を出すべきものだ。一歩下がって要求を年末年始とした。正月に働く社員の立場に立って、手当を出せ」などと主張しました。

人事考課が2期連続D判定での降格・降職となる制度について、本部は「このような制度になれば、職場は疲弊する。言いなりになる社員づくりを目的にしたものであり撤回せよ」などと主張しました。

リニア建設について、本部は「アメリカのリニア建設中止は住民の立場に立ったものだ。日本は住民の生活を犠牲にしている。巨大地震震源域にあるリニアは、二重系化の意味がない。建設費を払えないのは目に見えている」などと主張しました。

異常時の休憩について、本部は「台風15号のときには、休憩なしの11時間連続乗務があった。災害時は毎回同じことの繰り返した。乗務員の立場に立って、反省して教訓化せよ」などと主張しました。しかし会社は、全てにおいて主張を変えることなく、対立しました。本部は持ち帰り検討としました。